



胡蝶蘭の管理方法



お花がお手元に届いたら…

花を包んでいる紙を外してください。この紙は輸送中の保護の為のものです。ラッピングも出来るだけ早めにはずしてください。



①先端をとめてあるクリップを外す。



②後ろのクリップも外す。



③茎に巻きつけてある和紙をゆっくりにほどき全体にかかっている和紙を丁寧に取り外す。

◆置き場所… 一般のご家庭で理想的な置き場所は玄関です。

玄関に置いた際、注意していただきたい事は、冬場の夜間の温度低下(10℃以下になる場合)と、直射日光です。

◆温度… 一番お花が喜ぶ温度⇒「18℃～25℃」 常時、この温度を保たれるのが最高の状態です。ぎりぎり耐えられる温度⇒「8℃以上 32℃以下」この温度は胡蝶蘭がどうにか生きられる温度です。

お花が咲いているときは温度が低い方が長くお花を楽しむことができます。温度が高ければ高いほど開花している期間が短くなります。*1日の温度変化が少ない場所が1番好ましいです。

◆湿度… 基本的に日本の気候であればほとんど調節する必要はありません。ただし冬場の暖房が効いている室内の場合は乾燥し過ぎてしまい、花が傷んでしまう事があります。(理想は40%以上です)

※注意! 加湿器などで湿度を調節される場合は花に直接かけることは避けてください!(花染みの原因になります)

◆光… 基本的に直射日光は必要ありません。一般的にはレースのカーテン越しの太陽光が良いといわれますが基本的な生活レベルの光でかまいません! 胡蝶蘭は光が強すぎてもだめになってしまいます。間接的に太陽光が当たる場所が理想です。*目安は影ができるかできないかの程度です。

◆水やり… 1株ずつたっぷり(株全体にしみわたるぐらい)かけてください! 水ゴケの下の株元を手で触って頂き、乾いていなければ大丈夫です。受け皿の上に鉢を置いて構いませんが、受け皿に水はためないで下さい。(根ぐされの原因となります)

3月～4月は15日に1回位 / 5月～9月は10日に1回位

10月～11月は15日に1回位 / 12月～2月は20日に1回位

※12月～2月はたっぷりではなく1株あたり100ccぐらいにして下さい。基本的に肥料は必要ありません。(水道水に含まれている微量な栄養分のみで充分成長します。)もしも肥料を与える場合は春から夏にかけて1～2ヶ月に1度、秋から冬は必要ありません。

◆花が終わった後の管理… 一般的には株から3節目を切るなどと言われますが、切らないほうが咲きやすいです! 切ってしまうと、切ったところが花が咲く可能性があった場合、その部分を失ってしまうことになります。基本的に枯れてしまった部分は花はそのままとしておくことをおすすめします。温度、湿度、光、水かけなどはお花が咲いている時の管理と同じです。

<もう1度花を咲かせるためのポイント!!>

①基本的に肥料はあげない方が咲きやすいです。

②花が1番咲きやすい温度帯は18℃～24℃です!

(秋から冬に花芽が出て春に咲く場合が1番多いです)

③太陽光(直射日光)はほとんど必要ありません! 基本的な生活レベルの光でかまいません。*暗すぎても芽は伸びません。

胡蝶蘭を育て、花を咲かせることは非常に簡単です!

*株さえ生き続けられれば1年のうちのどこかで必ず花が咲く可能性がりますのであきらめないでください! 基本的に胡蝶蘭は、過剰肥料、過剰な光などをあまり与え過ぎないほうが長持ちします。

【植え替えの手順】

基本的にお花が終わった後、1～2年は、そのままの状態(鉢に入れたまま)が良いです。もし植え替えをされる場合は、ビニールポットから外して、全く培養の途でない素焼きの鉢に入れて下さい。その際黒くなってしまっている根があれば切ってください。水ゴケは株元にたっぷり入れてあげると良いです。



*水やりはお花の咲いている時期と変わりありません。